

## メカジキ 北太平洋

Swordfish *Xiphias gladius*

## 管理・関係機関

北太平洋まぐろ類国際科学委員会 (ISC)  
 中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)  
 全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

## 生物学的特性

- 最大体長・体重：眼後叉長 300 cm・500 kg
- 寿命：9歳以上
- 性成熟年齢：50%性成熟年齢は雄が約1歳、雌が約3歳
- 産卵期・産卵場：周年（盛期は4～9月）、熱帯・亜熱帯海域
- 索餌期・索餌場：夏、温帯域
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：調査中

## 利用・用途

切り身（ステーキ）、刺身、寿司、煮付け

## 漁業の特徴

近年の漁獲の8割以上は、本種を主対象として夜間に浅く漁具を設置するはえ縄で漁獲するが、大目流し網、突きん棒、マグロ類を狙うはえ縄の混獲でも漁獲する。

## 漁獲の動向

ISCに報告された本資源の総漁獲量は、1960年と1961年に2万トンを上回ったが、その後急激に減少し、1万トン前後に落ち込んだ。しかし1980年代以降米国及び台湾の漁獲量の増加により、1993年の総漁獲量は再び2万トンに近づいた。2000年代に入ると、台湾の漁獲量が増加したものの、米国やメキシコの漁獲量が減少したため、総漁獲量は再び減少し、2024年は8,073トンであった。

我が国の漁獲量は、1960年代中頃から1980年代後半にかけて約0.8万～約1.2万トンであったが、1994年以降は一貫して減少傾向にあり、2011年には4,460トンまで減少した。その後は4,000～6,000トンの範囲で横ばいで推移し、2022年には3,861トンと過去最低を記録した。2024年の漁獲量は5,359トン（暫定値）である。

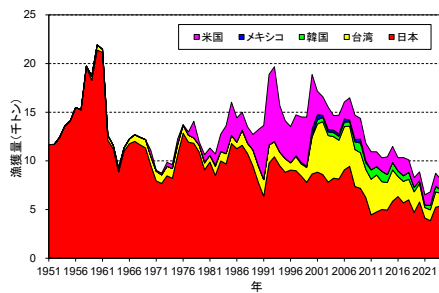
## 資源状態

北太平洋系群の本資源の最新の資源評価は、ISCかじき類作業部会によって2023年4月に統合モデル（SS3）を適用して行われた。現在の雌の産卵親魚量（SSB）は35,778トンで最大持続生産量（MSY）実現するSSB（SSB<sub>MSY</sub>、16,388トン）を上回り、乱獲状態になく、漁獲死亡係数（F）はMSYを実現するF（F<sub>MSY</sub>）を下回っており、過剰漁獲状態にないとされた。

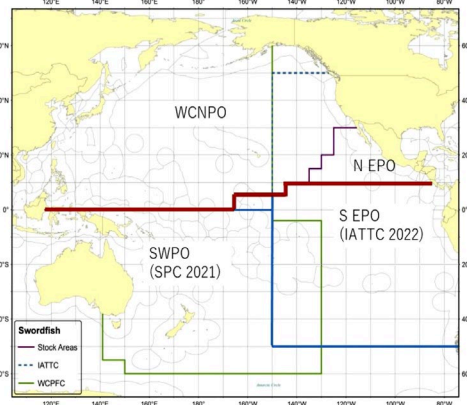
## 管理方策

北太平洋系群について、2018年9月のWCPFC北小委員会において、資源の管理目標として資源量をMSY水準に維持しつつ漁業を発展させることが合意されたが、限界管理基準値については、漁獲圧（米国提案）か資源量（他魚種の基準）を指標とするかで意見が分かれ、合意に至らなかった。2019年9月のWCPFC北小委員会では、F<sub>MSY</sub>を限界管理基準値とする漁獲戦略が策定され、同年12月のWCPFC年次会合で採択された。また、具体的な管理措置として、2023年7月のWCPFC北小委員会による措置案を経て、同年12月のWCPFC年次会合において、年間の漁獲量が200トンを超える漁業は、北緯20度以北の海域で漁獲努力量（魚船隻数、操業日数等）を基準年（2008～2010年）より増加させないこと等を定めた保存管理措置が採択された。

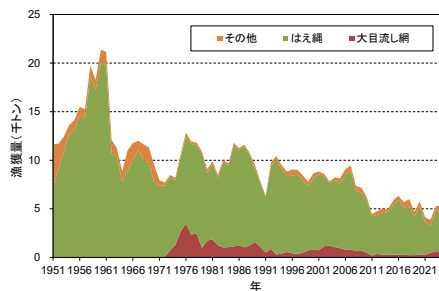
| メカジキ（北太平洋）の資源の現況（要約表） |  |
|-----------------------|--|
| 世界の漁獲量<br>（最近5年間）     | 6,522～8,867 トン<br>最近（2024）年：8,073 トン<br>平均：7,801 トン（2020～2024 年）   |
| 我が国の漁獲量<br>（最近5年間）    | 3,861～5,788 トン<br>最近（2024）年：5,359 トン<br>平均：4,878 トン（2020～2024 年）   |
| 資源評価の方法               | 統合モデル（SS3）による解析  |
| 資源の状態<br>（資源評価結果）     | $B_{2021}$ ：88,755 トン<br>$SSB_{2021}$ ：35,778 トン、 $SSB_{MSY}$ ：16,388 トン（ $SSB_{2021}/SSB_{MSY}$ ：2.18）<br>$F_{2021}/F_{MSY}$ ：0.5<br>2021 年の資源状態は、過剰漁獲ではなく、乱獲状態でもない |
| 管理目標                  | $F_{MSY}$ ：0.18  |
| 管理措置                  | 年間の漁獲量が 200 トンを超える漁業は、<br>北緯 20 度以北の海域において 2008～2010 年の努力量を上回らないこと   |
| 管理機関・関係機関             | ISC、WCPFC、IATTC  |
| 最新の資源評価年              | 2023 年   |
| 次回の資源評価年              | 2028 年   |



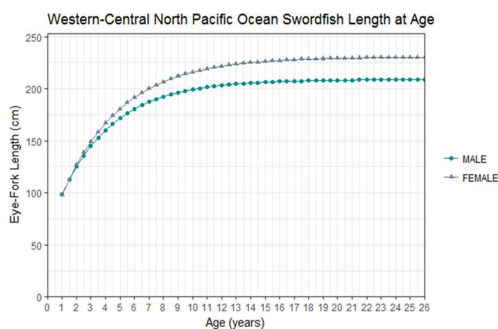
北太平洋（赤道以北）におけるメカジキの国・地域別漁獲量（1951～2024 年）



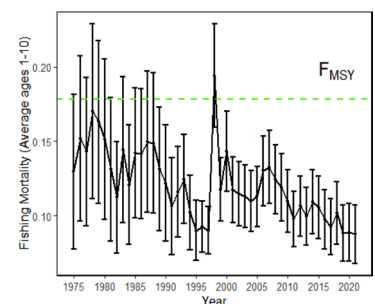
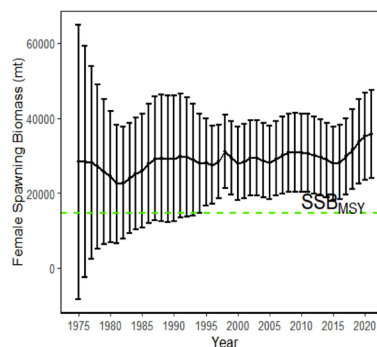
太平洋におけるメカジキ資源評価の海域区分  
2023 年の資源評価は、WCPFC と N EPO を合わせた海域で実施された。



北太平洋（赤道以北）におけるメカジキの我が国の漁法別漁獲量（1951～2024 年）



北西太平洋のメカジキの成長曲線  
縦軸は眼後叉長。丸が雄、三角が雌を示す。



北太平洋系群（1975～2021 年）の資源評価結果

左図は、産卵親魚量の推移（黒線）及び最大持続生産量の生産に必要な資源量（緑色点線、 $SSB_{MSY}$ ）を示す。  
右図は、漁獲死亡係数（黒線）及び最大持続生産量の生産に必要な漁獲率（緑色点線、 $F_{MSY}$ ）を示す。  
両図とも、エラーバーは 95%信頼区間を示す。